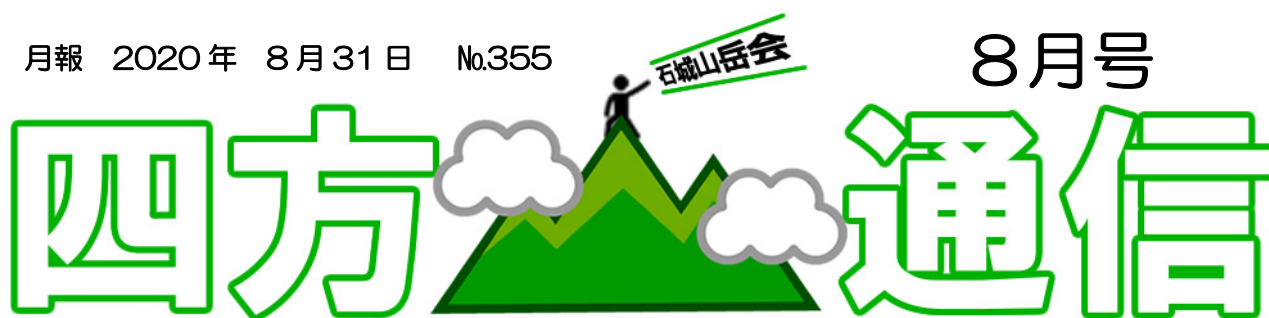


月報 2020年 8月31日 No.355

8月号



石城山岳会事務局編集

岩木山

甲武信ヶ岳 (2,475m)

巻機山 (1,967m)

美ヶ原 (王ヶ頭 2,034m、王ヶ鼻)

霧ヶ峰 (車山 1,925m、八島ヶ原湿原)

8月登山教室「東吾妻山」 1,975m

8月登山教室「東吾妻山 (1 9 7 4m)」

会津駒ヶ岳

蓼科山 (2,530m)

火打山と妙高山

四時川溪谷沢歩き

沢登り「背戸峨廊」

岩木山

令和2年6月20日（土）

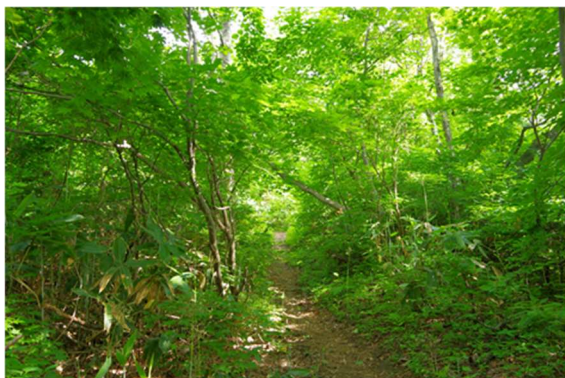
伊藤

深田久弥さんの日本百名山を何気なくパラパラと眺めていたら「懺悔懺悔、六根清浄・・・」の言葉が目にとまり、岩木山神社からその山頂まで歩いてみたくなりました。

白神山地十二湖の青沼や、不老ふ死温泉の露天風呂に寄りながら岩木山神社を目指し、桜林公園でテント泊。ここは無料な上に、トイレも綺麗でとても良いキャンプ場です。



翌朝、神社にてお参りを済ませ 7:00 に出発。先ほどテントを片付けたばかりの桜林公園やスキー場を抜け登山口へ。



「七曲がり」・「カラスの休場」などの標識や「姥石」を見ながら登って行くと、やがて避難小屋「焼止まりヒュッテ」が建っていました。（8:50）



ブロックを積んで作られた建物はだいぶ年季が入っており、引き戸を開けて中に入ってみると、傷んだ木製のベッドや、カビ臭くよどんだ空

気に迎えられ、ここに泊まるのにはだいぶ抵抗を感じましたが、外に出ようと振り返ると、印象が一変しました。



扉の内側に「また来てネ♡」の文字が。

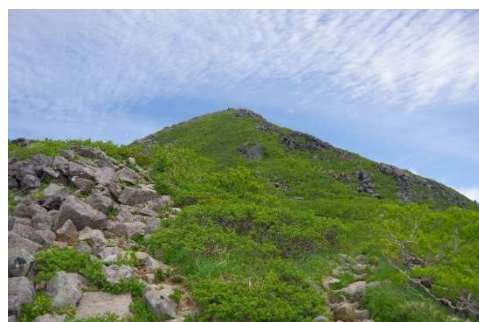
古びて傷んだ小屋から急に優しさと温かさを感じ、汚いなと思った事が恥ずかしく、じわりと心に沁みました。



小屋を過ぎると沢沿いの道になり、事前に調べていた通り雪渓が現れました。7月頃まで雪渓は残っているそうです。

軽アイゼンを履いて登りましたが、下は大きな空洞のようで水音も大きく、踏み抜いて穴に落ちそうで雪渓の真ん中を歩く気にはなれませんでした。

坊主ころがしと呼ばれているらしい急登を、アイゼンの歯を頼りに登りますが、振り返るとなかなか高度感があり、緩んだ雪は滑りやすく、ピッケルが欲しくなりました。



やがて雪渓も終わり種蒔苗代の標識と池が現れ、もう一つ雪坂を登ると鳳鳴ヒュッテが現れます。(10:20)

そこからはゴロゴロとした岩を登り、山頂へ到着しました。(10:40)

無事登れた事を感謝しつつ岩木山神社奥宮へ手を合わせ、帰路につきました。

道中を通して、前日テントの中で暗記した深田百名山引用の「懺悔懺悔、六根清浄、大山八大、金剛童子、一一礼拝、南無帰命頂礼」をつぶやきながら歩いてみましたが、「清らかな心を会得する」というのはそんなに簡単にはいかない様です。(苦笑)

(文責：伊藤)



甲武信ヶ岳（2,475m）

2020年7月18日（土）19日（日）

太 山 縣 菊 地 外 3

千曲川源流を遡って「甲武信ヶ岳」へ登り、「三宝山」ほか県境の分水嶺を歩いて周回。

8時半過ぎに長野県側の毛木平駐車場に到着。千曲川（信濃川）に沿って、その源流、水源地点まで登る。途中、昼近くナメ滝を過ぎた辺りで、小雨に遭って雨衣を着る。

水源地点からは、分水嶺、山梨県境の尾根まで折り返しながら登る。尾根で国師ヶ岳からの縦走路に出会うと、甲武信ヶ岳の山頂はもう少し。頂上付近は、ガスがかかり、眺望はなかった。しばし休憩後に甲武信小屋に下りた。小屋は、ログハウス風2階建て。1階は玄関土間、食堂その他。2階は広間で宿泊スペース。感染症対策で、敷かれていた布団はひとつおき。濡れた雨衣等を土間に乾し、自炊の後、就寝。

翌日は時折強い日差しの射す、ますますの天気。再び甲武信ヶ岳に登り、富士やアルプスの眺望を楽しむ。その後、埼玉県最高峰「三宝山」ほか長野・埼玉両県境の尾根をアップダウン繰り返し縦走、十文字峠に下る。途中にハシゴ1か所、クサリ2、3か所あったが、手がかかり、足がかりは十分で、少し注意すれば大丈夫。十文字小屋は開いていなかったが、庭先で昼食、休憩。チップ制の清潔な洋式トイレ（土足禁止）があったので、利用させてもらう。

十文字峠からの長い下りの後、14時過ぎに毛木平駐車場に戻る。

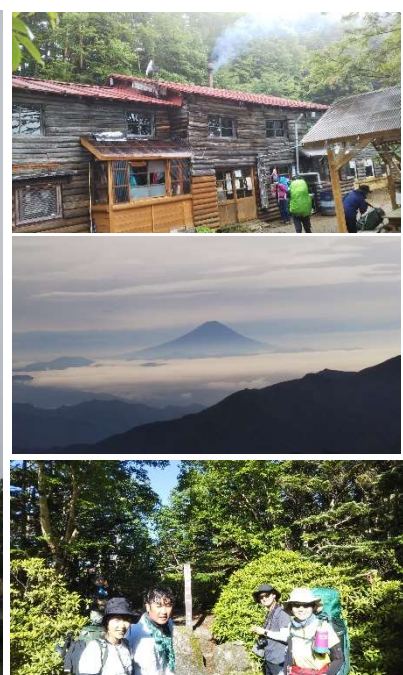
コースタイム

【初日】9:10 毛木平駐車場→11:20 ナメ滝→13:10 千曲川水源→13:50 尾根・縦走路出会い

→14:20 甲武信ヶ岳→14:50 甲武信小屋（泊）

【翌日】6:30 甲武信小屋→6:50 甲武信ヶ岳→7:45 三宝山→9:15 武信白岩山（南峰）

→10:50 大山→11:45 十文字小屋→14:05 千曲源流挾霧橋→14:15 毛木平駐車場



巻機山（1,967m）

2020年8月1日(土)2日(日)

太・山縣・菊地・二瓶 外3

南魚沼市の桜坂登山口から井戸尾根を登り、避難小屋に泊まって、翌朝に山頂を踏んだ。

新潟の知人2人と合流して、駐車場の奥から登り始める。どんより曇って、湿度も高いが、緩い樹林の道なので序盤は比較的快調。四合目、五合目と進むと傾斜が強くなり、雨も降ってきた。六合目で割引山の美しい姿に心癒されたが、樹林が切れた七合目の物見平では蒸し暑さでバテ気味。灌木もなくなった八合目辺りからは、道が階段状なり、九合目の前巻機（ニセ巻機）に着くと一安心。このときは、うっすら霧がかかり、期待した眺望を得られなかった。

前巻機から少し下ると避難小屋。2階建てのきれいな小屋で、内部のトイレも清潔。すぐ下には水場もあり、快適な環境で小屋泊を楽しむことができた。

翌朝は、まずまずの天気。ザックをデボし、食事前に巻機山に登る。山頂近くまで登ると、雲の上に出て視界が開けた。山標柱のある御機屋から最高地点までは、池塘もあり、天上の庭園を歩く気分。雲海には新潟、長野の山々が浮かぶ。最高地点に案内板はなかったが、ケルンを前に会員4名で記念撮影。

避難小屋に戻り、朝食後、下山を開始。前巻機に登り返すと、昨日とは打って変わって快晴。全員で集合写真を撮ると、真夏のガラガラする太陽の下、雄大な景色を前に下って行った。

コースタイム

【初日】 9:15 駐車場→9:20 前巻機→15:00 避難小屋

【翌日】 4:45 避難小屋→5:00 御機屋→5:20 巻機山→6:10 避難小屋 7:30

→7:35 前巻機→11:30 駐車場



美ヶ原（王ヶ頭 2,034m、王ヶ鼻）

2020年8月8日(土) 太、山縣、西、菊地

美ヶ原高原を歩き、最高地点「王ヶ頭」を越え、突端の「王ヶ鼻」まで行った。

山本小屋前の駐車場に車を止め、歩きだす。両側に牧柵のある平坦な砂利道は、霧のために先が見えない。少し行くと「美しの塔」があり、その先「塩クレ場」を過ぎたあたりから霧は薄くなり、ホテルとアンテナ群がそびえる丘が見えた。美ヶ原高原の最高地点「王ヶ頭」だ。登って行くと、ホテルの裏手には、「王ヶ鼻」の石碑、石祠と三角点があった。

少し下って、なお行くと小高いところに別の電波塔があり、その手前を左に進むと「王ヶ鼻」。石祠と石碑があり、その先は美ヶ原高原の台地の突端、崖っぷちだ。眼下の牧場の先には松本市街がうっすらと見える。快晴なら遠くアルプスも望める絶景ポイント。

折り返して、王ヶ頭ホテルで昼食を取り、山本小屋の方へ戻った。

コースタイム

10:25 駐車場（山本小屋）→11:40 王ヶ頭（ホテル、三角点）→12:05 王ヶ鼻
→11:40 王ヶ頭（ホテル、三角点）→14:40 駐車場（山本小屋）



霧ヶ峰（車山 1,925m、八島ヶ原湿原）

2020年8月9日(日) 太、山縣、菊地、西

車山肩駐車場すぐ近く、コロボックルヒュッテに宿泊したので、早朝、車山に登った。

車山湿原を見下ろす木道を歩いていくと、八島ヶ原方面からの道に合流、山頂に向かって急登になる。登り切った山頂は、レーダードームが見えないくらい濃い朝霧。（※写真は、八島ヶ原の後に、登り直したとき撮影。）眺望は諦め、三角点を踏むと、石がゴロゴロする道を下って、ヒュッテに戻る。

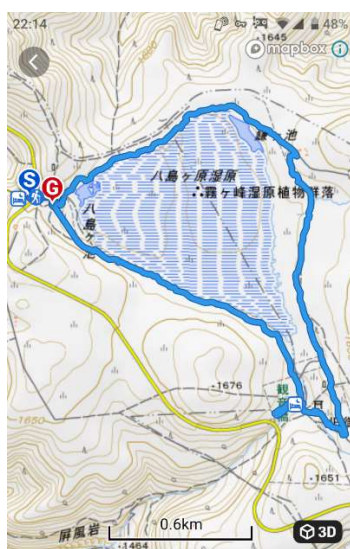
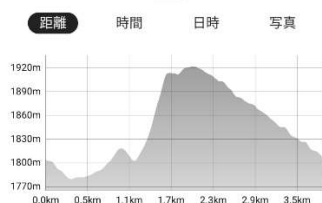
名物ボルシチセットで朝食後、八島湿原駐車場へ車で移動。ビジターセンターでパンフレットをもらい、湿原を時計回りに散策。ほとんどずっと木道が続き、天気も良かったので、非常に歩きやすい。道の両側に様々な花は、群落が小さいものの、種類の多さが素晴らしい。御射山のヒュッテで休憩して駐車場に戻る途中、木道脇で翅を休めるアサギマダラを間近で観察。良い思い出もできた。

八島ヶ原湿原を散策後、SKYPARK RESORT に立ち寄ると車山の山頂がはっきりと見えた。リフトで再チャレンジすると、今度は、眼下に蓼科湖、目の前に蓼科山やハヶ岳の眺望を楽しむことができた。

コースタイム

6:00 コロボックルヒュッテ→7:00 車山→8:00 コロボックルヒュッテ

10:00 駐車場（ビジターセンター）→11:40 ヒュッテみさやま→13:00 駐車場



8月登山教室「東吾妻山」 1,975m

2020年8月9日(日)

参加者：秋葉校長他山岳会会員 12名、登山教室生 7名

報告者 国井明夫

今回の登山教室は、初めての市外での登山実技となる「東吾妻山」である。予定では、8月は、「背戸峨廊」であったが、台風による立ち入り禁止のため、東吾妻山となった。また、登山実施直前に新型コロナの影響により参加予定者のキャンセルがあり、マイクロバスから車分乗となった。

水石トンネル駐車場に集合し、4台の車に分乗して磐越道を会津方面に向けて出発。いわきは、曇り空であったが、天気予報では、今日は、「東北北部で大雨の警報」が出され、その雨がどこらへんまで影響がでるのか心配された。磐越道五百川PAで休憩し、猪苗代磐梯高原ICで磐越道をおり、母成グリーンラインからスカイラインまで来ると雨が降っていた。

東吾妻山、鳥子平登山口に到着して急いでレインウェアを着用した。こうしている間、雨とともに風も出てきた。車を運転してくれた方は、車をゴール地点に置くために兎平駐車場に向かった。残った者は、秋葉校長を先頭に登山口から山へ入った。山へ入って、しばらくすると先頭を根本先生が変わった。その間、レインウェアで動いているため、体温が上昇し、カップの中は汗だらけとなった。また、林の中では、風雨は避けられたが、木が開けたところでは、強風と雨をまともに受け、歩くのが容易でなくなった。景場平から展望台を過ぎ、尾根に出て、山頂に向かったが、風が強いため、林の中に戻り、休憩となった。休憩中、体を動かさないと立っていると汗で体が冷え、寒さを感じた。休憩の間に軽く行動食を食べた。

休憩後、山頂に行くと更に風雨が酷くなり、吹き飛ばされそうな状況で、山頂での写真撮影もそこそこの下山にした。姥ヶ原から鎌沼をとり、避難小屋で昼食をとった。悪天候の中、登山を楽しんでいる人が数名いた。昼食後、樋沼経由で兎平駐車場の予定だったが、樋沼を経由しないで駐車場に向かうこととなった。全員が無事に兎平駐車場に到着し、記念撮影して登山終了、お疲れさまでした。

その後、「スカイピアあだたら」で入浴して、高速道路を二本松ICからいわき三和ICへ帰ってきた。いわきでは、天気は曇りで雨は降っていなかったようだ。

今回の登山は、雨、風が強い中での登山であった。天気条件が悪い中、貴重な経験となり、これはこれで楽しい登山となりました。でも、山は天気がいいのが一番です。秋葉校長のギブスでの登山、根本先生の年齢を感じさせない足取りに敬服します。ありがとうございました。

【コースタイム】 鳥子平登 7:50→景場平 8:30→展望台 9:50→東吾妻山頂 10:20→姥ヶ原分岐 11:10→姥ヶ平避難小屋 11:30→兎平駐車場 12:30



兎平駐車場



東吾妻山頂



8月登山教室「東吾妻山（1974m）」

2020年8月9日（日）

生徒7名 会員12名

報告：佐藤 勝（登山初心者）

コロナ禍はこの登山教室にも影響しており、当初予定が多少変更となり、密を避け少人数での移動5：30分、4台の自家用車に分乗し出発。前日の天気予報は曇り、「猛暑を避けられた登山には丁度良いかな」と予想していたが、徐々に雨脚が強くなり、登山口に到着した頃には雨に加え風まで出てくる始末。

＝今回の教室は経験と修行の予感＝

7：54、鳥小平登山口より入山、雨合羽のフードを少し強めにしぼり、濡れる草葉をかき分け登山開始。「雨風と気温の低さに合羽が丁度良い。」と思っていたのは初めのうち、自らの汗のため不快指数は最高値。それでも足を進め

8：35、草木が開けた場所に到着（景場平）
一面に広がる、おそらく綺麗であろう景色を想像し、滑る木道を、珍しいであろう高山植物にも目もくれず、ただ風に煽られぬよう足元に注意をはかり足を進めた。



10：00、山頂手前にて休憩、普段は入らない様な藪の中であるが悪天候時は雨風を凌ぐためには最適とのこと。10分休憩の後いよいよ山頂へ。

10：20、東吾妻山頂、標高1974m 遮る物は何もない。

風速計がないため数字は定かではないが、踏ん張らなければ体がもっていかれそうでかなりのものには違いない。
登頂の達成感を味わうこともなく
絶景は雲と強風雨に遮られ
そんな中、皆で記念の写真を撮り
滞在時間3分程度で下山開始となった。



11：10、鎌沼通過、今回の登山の一番の撮影ポイントに到着。雨風は多少収まってきたものの雲は低く垂れ込み、空の灰色が湖面に映り込み、雨に濡れた深緑のコントラストが・・・

11：30 酸ヶ平避難小屋、山小屋の有難みをかみしめながら、おにぎりをかみしめ、昼食休憩



いつもと違う、厳しい過程ながらもつかぬ間の憩いを楽しみ、最終ゴールを目指し再出発。

12:30 一切経山からの噴気を横目に通過。浄土平では時より漂う硫黄臭により吾妻連峰は活火山であることを再認識し、13:00 ゴール兎平駐車場へ



* 鳥子平登山口 ～景場平 ～展望台 ～東吾妻山頂 ～姥ヶ原分岐 ～浄土平 ～兎平駐車場
⇒スカイピアあだたら（入浴）

* 歩行距離：約11km 標高差：約400m 入山時間：約5時間



根本先生と登山教室メンバー



山岳会メンバー

～ 個人的な（登山初心者）感想として ～

今回の登山教室は、悪天候のため夏山の雄大で色鮮やかな景色を楽しむことは出来ませんでした。しかしながら、悪条件での体調管理や周りの人への気遣い。装備品の不足に気づくなど非常に収穫の大きいものとなりました。

途中で立寄った山小屋も環境に配慮されており、登山者の山への思いが感じられるものでした。

登山そのものも、水溜まりを跳び、滑る岩を上り、次の歩数を考えるなど、子供の頃に平気で楽しんでた遊びが思い出され童心に帰った気分でした。また、帰りに立ち寄った温泉は格別なものとなりました。

しかしながら、一番の実感は「秋葉校長は鉄人」ということ。

会津駒ヶ岳

2020.8.9~10

赤塚、ほか 1 名

2018 登山教室以来、二年ぶりの会津駒ヶ岳。

今回は、駒ノ小屋 1 泊ののんびり登山。とはいえ、コロナ禍の宿泊で宿泊人数制限中（宿泊者 9 名）、できればシュラフカバー持参等のお願いがありました。

8/8 からの三連休で 8/10 は「山の日」でもあり、8/9 午前 10:00 滝沢駐車場は、すでに満車状態で路駐が多々あり。中腹の駐車場まで戻り、なんとか駐車。

一日目は、泊りということで 10:30 滝沢登山口をのんびり出発。しかしながら林道は蒸し暑く、ほぼガスガスのなかでの登山でバテバテでしたが、時折吹き抜ける涼風で何とか熱中症にもならず、14:00 何とかガスに包まれた駒ノ小屋到着。やはり、夏場は、早めの涼しい時間帯に登るに限ります。

翌二日目は前回の教室山行で中門岳まで足を延ばせなかったもので、今回は早朝の朝飯前に出かけました。が朝露で木道が濡れていて非常に危険で神経をすり減らしました。（へっぴり腰で何とか中門岳周回）

小屋回りの池塘周辺は木道の整備事業も着手してはいるものの、駒ヶ岳への登り口周辺の木道は、まだまだ手つかずの状況で注意が必要です。（写真の看板とおりです）私も 2 回井%経験済み！

しかしながら天気は快晴、中門岳からの大展望は素晴らしく、燧ヶ岳もはっきり見えて最高でした。小屋へ戻り朝食タイムとなりましたが同行者が朝食を自宅へ置いてきたため、急遽おかゆとなりました。

まあ、おかゆも美味しかったので・・・ハプニングも OK。また小屋の奥様からも帰りがけに山岳会の K シェフの話が出て、また大盛り上がりでした。

下山後はお風呂を楽しみにおりましたが、ほぼ 13:00 からの入場とのことで断念し、地元の裁ちそばを堪能し、次回はキリンテロへの縦走コースもいかなと思いながら、のんびり帰途につきました。

コースタイム：8/9 滝沢登山口 10:30⇒水場 12:00⇒駒ノ小屋 13:56

8/10 駒ノ小屋 4:50⇒中門岳 5:58⇒会津駒ヶ岳 6:50⇒駒ノ小屋 7:20（朝食）⇒駒ノ小屋 8:20⇒滝沢登山口 10:34⇒昼食 12:30⇒帰路 16:00



蓼科山 (2,530m)

2020年8月10日(月) 太、山縣、菊地、西

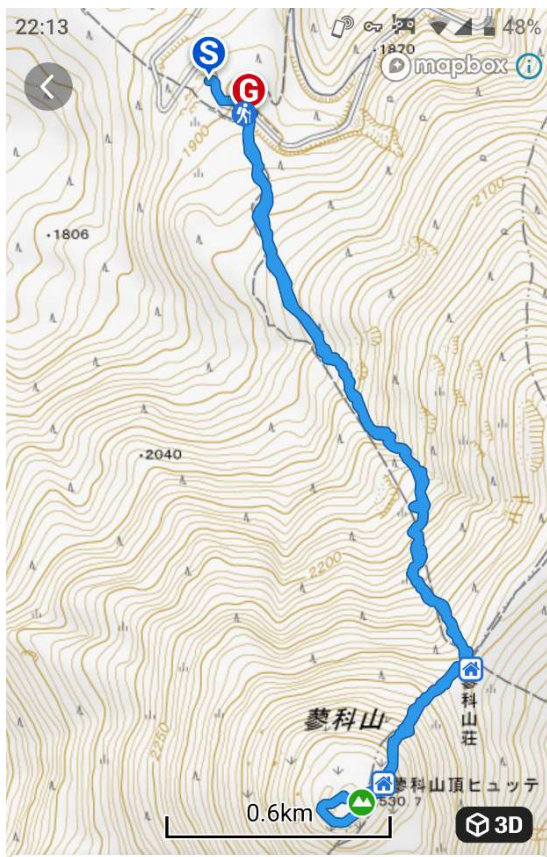
8月三連休の最終日、恵まれた天候のもと蓼科山に登った。

前泊したペンションから七合目登山口に向かうと駐車場はほぼ満車。登山口の公衆トイレを利用して準備完了。神社の鳥居をくぐり、樹林の中を登って行くと、斜面の傾斜が増してゆく。登山道は土の多い箇所もあるが、将軍平まではゴロ石が多い。将軍平の蓼科山荘でアイスを食べてひと休み。山頂までは大きな石を乗り越えて急斜面を登って行く。山頂は見渡す限り石が転がっている台地。遮るものがなく、晴天の下、周囲の山々がすべて見渡せる。近いところでは車山も、北八ヶ岳も、少し離れて美ヶ原高原も、ずっと向こうにはアルプスの山々も。非常によく見渡せる。

ひととおり絶景を堪能した後、山頂ヒュッテでグッズを購入して、下山。

コースタイム

7:45 七合目登山口→9:15 将軍平(蓼科山荘)→10:05 蓼科山頂ヒュッテ→10:10 蓼科山→11:10 蓼科山頂ヒュッテ→11:55 将軍平(蓼科山荘)→13:35 七合目登山口



火打山と妙高山

2020年8月10、11日

参加者：小林 他1名

長年麓に住んで四季の山並みを見ていたけれど登ったことがなかった妙高山と火打山へようやく行って来ました。

当初、笹ヶ峰でテ泊を考えましたが、天気も今一安定しないので道の駅あらいのビジネスホテル起点に、比較的天気のよさそうな10日火打山、11日妙高山と登ってきました。



【1日目】火打山 笹ヶ峰登山口から

朝6時に笹ヶ峰登山口駐車場に到着すると既に満車の様子で、途中で車を止めて歩いている人もいたため、車を止めても問題なさそうな京大ヒュッテ付近まで戻りスタートしました。

先日再放送の山女日記でも見た登山口で、保全協力金(500円/人)を支払い、地図とらいちょうのキーホルダーをもらってスタートしました。山頂まで9kmの長い道のりです。



笹ヶ峰登山口

最初は長〜い木道、黒沢橋を渡り十二曲りへ、この登りより十二曲り後が急登でした。今日は山の日で沢山の登山者でしたが、皆さん早く、どんどん追いつけてもらいました。

富士見平で休憩後、ようやく高谷池ヒュッテに到着しました。景色は最高ですが、山頂まではまだ二段階の急登が待っているようです。ヒュッテ前のテーブルで小休止後山頂へ向けスタートしました。天狗の庭ではハクサンコザクラは終了していましたが、ワタスゲと火打、焼山の姿が絶景でした。



天狗の庭

山頂が近づくにつれ、だんだんとガスが上がってきて残念ながら山頂から360°の展望とは行きませんでした。無事登頂できました。もう少し早ければ能登半島まで見えたとのこと。山頂で昼食、高谷池ヒュッテでコーヒータイムとした後、また長〜い道のりを辿って下山しました。

いやー長かったです 疲れました。明日妙高山行けるかな？



ワタスゲと火打山



火打山山頂(2,461.7m)

笹ヶ峰登山口 6:30~7:20 黒沢橋~8:00
十二曲り~8:50 富士見平~9:55 高谷池
ヒュッテ~天狗の庭 10:35~12:05 火打
山 12:50~14:05 高谷池ヒュッテ 14:40
~15:50 富士見平~16:25 黒沢橋~
17:10 笹ヶ峰登山口

【2日目】燕温泉登山口から妙高山



登山口から見た妙高山

今日も天気は良さそうです 道の駅あたりから妙高山がクッキリ見えています。昨日、ロキソニンジェルを塗った効果か足の筋肉痛もないので妙高山決行です。燕温泉の駐車場に 5:30 頃到着。今日はまだ駐車場にも余裕がありました。

駐車場から温泉街を抜け、燕温泉登山口からスタートです。北地獄谷の左側ルートで舗装路をテクテク歩きましたが、今日もどんどん追い抜いてもらいました。

赤倉温泉元湯まで舗装はされ道幅もありましたが片側は大きく切れ落ちていて、笹で直接下は見えないもののかなりの高度を感じました。

今日も朝から陽射しが強く、常に登りで汗だくでした。

称明滝、光明滝の上流は温泉のような濁水が流れており、温泉がブクブクと出ているところもありました。胸突き八丁、その後の急登を登り、天狗堂で休憩後、再度急登の連続でようやくクサリ場に到着しました。鎖場からは岩登りですが、階段状にステップが切っているので特に問題ありませんでした。鎖場を通過後、さらに岩場を登り妙高山南峰（妙高大神 2,454m）へ登頂しました。

今日もザ・夏山で山頂に到着する頃にはガスが上昇し 360° の展望という訳にはいきませんでした。山頂は、麓から見るのとは異なり岩々で、いかにも火山の山を感じさせられました。山頂（北峰 2,446m）でゆっくりと昼食休憩後、来た道を下山しました。

登りでは感じませんでしたが、下りでは粘土質の道が非常にすべり易く、2 回しりもちをつきました。計画では、湯道分岐から笹平経由を考えていましたが、疲れたので登りと同じルートで下山しました。

現在、去年の台風で大倉沢が通行止めになっていますが、復旧されれば歩いてみたいルートです。

湯道分岐と光明滝の間で、登りで渡渉点を見逃し少し行き過ぎ、下りもリボンテープは見えているものの、どのルートを取ればよいか判りにくい場所がありました。



光明滝(下)と称明滝(上)



鎖場



頂上直下の岩場



妙高山南峰(2,454m)



妙高山北峰(2,446m)

今回は、下から妙高山、火打山と登りましたが、次に行くときは高谷池ヒュッテか黒沢尻小屋泊でゆったり行きたいと思います。とりあえず大満足というか、ゲップがでるくらいの 2 日間でした。

燕温泉登山口 5:50~6:40 赤倉温泉元湯~7:25 湯道分岐~7:55 胸突き八丁~8:35 天狗堂~9:15 風穴~10:10 鎖場~10:45 妙高山南峰(妙高大神)~10:55 妙高山北峰 11:35~12:55 天狗堂~14:00 湯道分岐~14:20 赤倉温泉元湯~15:10 燕温泉登山口

(文責：小林 憲児)

山行報告 四時川溪谷沢歩き

2020年8月17日(火)

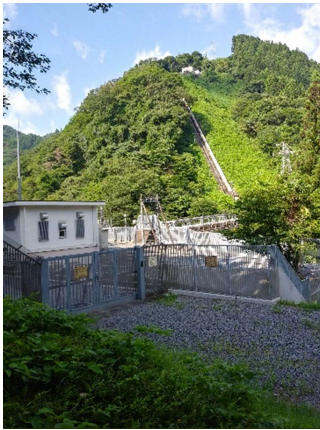
秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子、芳賀一郎

四時川はいわき市の名水10選の一つである。源流は東白川郡塙町・茨城県境付近で一旦茨城県に入り。茨城県の和尚山北側を回り再び福島県いわき市に入り、いわき市沼部で鮫川に合流する延長27kmの2級河川である。

60周年記念誌「いわき市とその周辺の山々」に記載されている中で唯一この四時川沢コースだけを歩いておらず、宿題をやり残したような

気がしていた。

連日の猛暑に参っていたので同行者を得たので涼を求

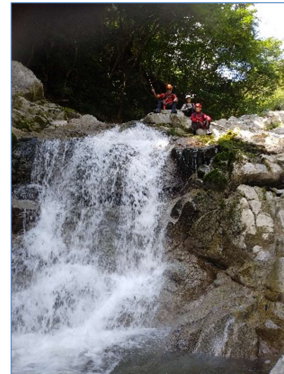


めて出かけた。

旧南大平分校前の空き地に駐車し、ハーネスを着けて四時第一ダムから入渓する。水量の少ない川原を進むと、中央に卵型の大岩が表れる。かつては周囲が深くて近づけなかったらしいが、今は左岸が岩で埋まっており何なく通過できた。

本流は緩やかだが、左岸からいくつかの滝が出てきて楽しませてくれる。地形図にあるようにゴルジュが続き、今回は水量が少なかったので股下まで濡れる程度でロープも使わずに済んだが、増水の時には逃げ場がないので注意が必要だ。3分の2ほど進むと幅約10m程の一番狭いゴルジュとなる。

やがて深い淵を持った唯一の滝「四時の滝」に出る。落差約10mの二段の滝を登ると鉄製の赤い橋に出て遡行は終わる。横川の第2発電所ダムで昼食とする。



帰路は車両通行止めとなっている、元トロッコ軌道の遊歩道を約4km戻るが所々大きく崩壊したり、土砂に埋まったり、藪だったりして少々苦労もする。

対岸の518mピークから谷底までの斜面はイヌブナ林、シデ林、クリ、コナラ林、シダ類、コケ類が手付かずのままの植生で勿来県立自然公園に指定されている。

キツリフネソウ、ヤマアジサイ、センニンソウ、ヤマジノホトトギス、ハッカなどの野の花を愛でながらのんびりと戻る。



追記 60周年記念誌「いわき市とその周辺の山々」の「四時川溪谷」の記事は元石城山岳会長・県岳連会長を勤められた故・吉田元さんが執筆したものだが、今回読み直して改めて素晴らしい内容だと感じました。一読を薦めます。

コースタイム

駐車場 8:30→第一ダム 8:35→大岩 9:15→滝 10:40→赤い橋 10:50→横川 11:00
～20→12:10→駐車場 12:50

(文責：秋葉)



沢登り「背戸峨廊」

2020年8月22日(土)

参加者 秋葉、馬場、根本、芳賀、長谷川裕、小林、栗崎透、栗崎容子
下山田(途中まで)、佐藤幸子(途中まで) 計 10名

今年は5月以降、会の先輩から入遠野源流、官沢～往生山、四時川溪谷…と「登山道(主に尾根)ではなく沢を歩いて山を楽しむ」というスタイルを実践で教えていただきました。

そして今回は、何度か登山道を使って歩いたこともあり、いわきが誇る溪谷美であると密かにファンだった「背戸峨廊」！ずっと沢と共に歩き、たくさんの滝がある事もわかっていたので、ワクワク、そしてちょっぴりドキドキしながら出かけました。

登山道を歩くと、たくさんの滝や淵の名前が表示されて「フムフム」と眺めながら歩けますが、今回は登山道歩きではないので、全ての見どころの名前は都度押さえることはできませんでしたが、(一部見えた箇所もあり)見ごたえのある滝や縁が次々に楽しませてくれます。

8:15 駐車場を出発。

歩き始めて12分ほどのゴルジュで、右岸の岩壁の僅かな岩の足場を探りながら前進していたSさんが淵にドボン!! 少し流されましたが無事。後続の我々は同じルートを慎重に進む人と、岩の高い部分を進む人に分かれました。がしかしこの後我々は、沢登りとはドボンも楽しめなくてはいけないのだ…ということに気づくことになります(笑)

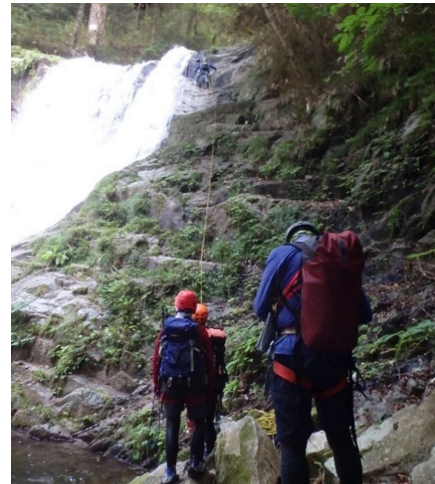


8:50 進むまっ白な激しい流れが現れました。この流れを右岸から左岸に移動する為、秋葉さんがロープを木に回し張ってくれています。

ロープのある安心感がよくわかりました。

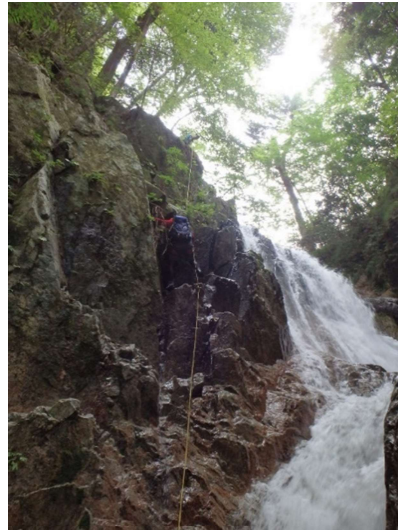


9:05 ひとつ目の滝・トッカケの滝でしょうか。

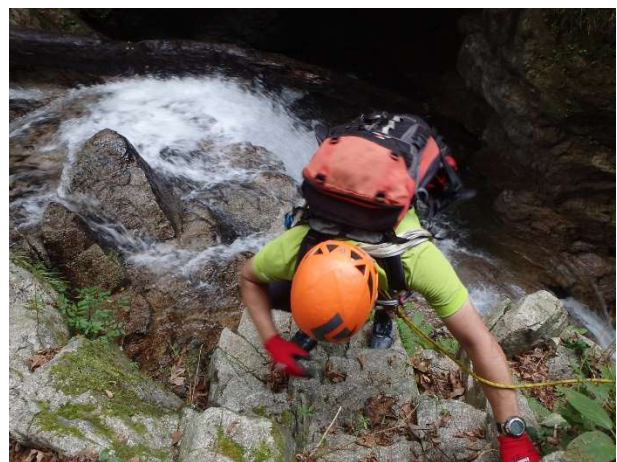
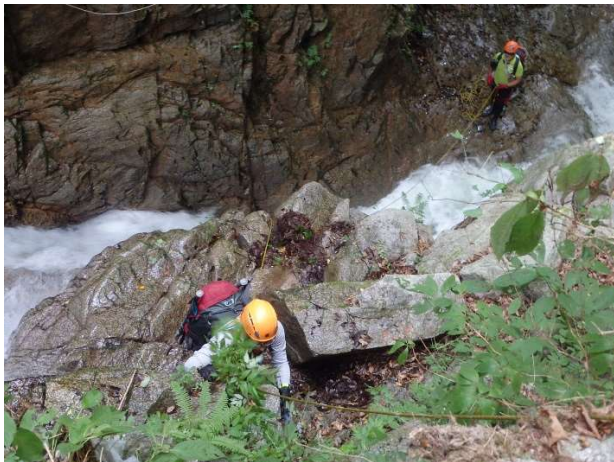


全員滝つぼの浅瀬を滝の左岸に回り込み、さらに秋葉さんが登り滝の源頭部からロープを垂らしてくれ、そのロープをビレイとして滝の流れの脇を登りました。





これを登りきると、バトンタッチを受けたように次の滝。こちらは滝の右岸の方が手掛かり、足掛かりがあったためか、右岸を登りました。



滝の源頭まで登ればそこは、真っ逆さまに白い激流となって落ちていく様とはまるで別の顔の滑らかな流れで、色濃くなってきた緑の木々と共に心地よい景色を作ってくれています。



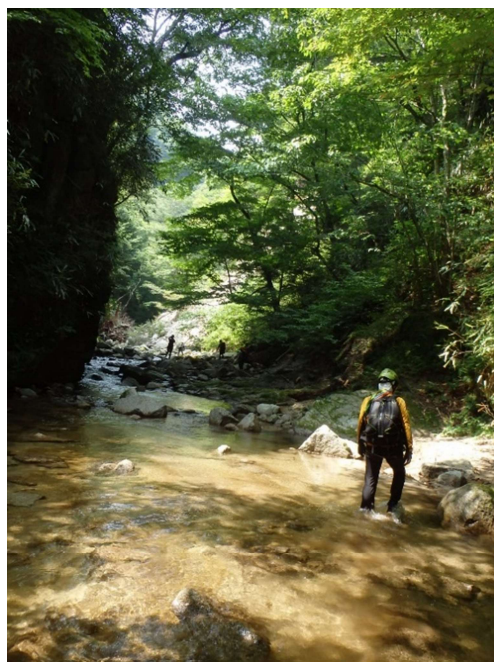
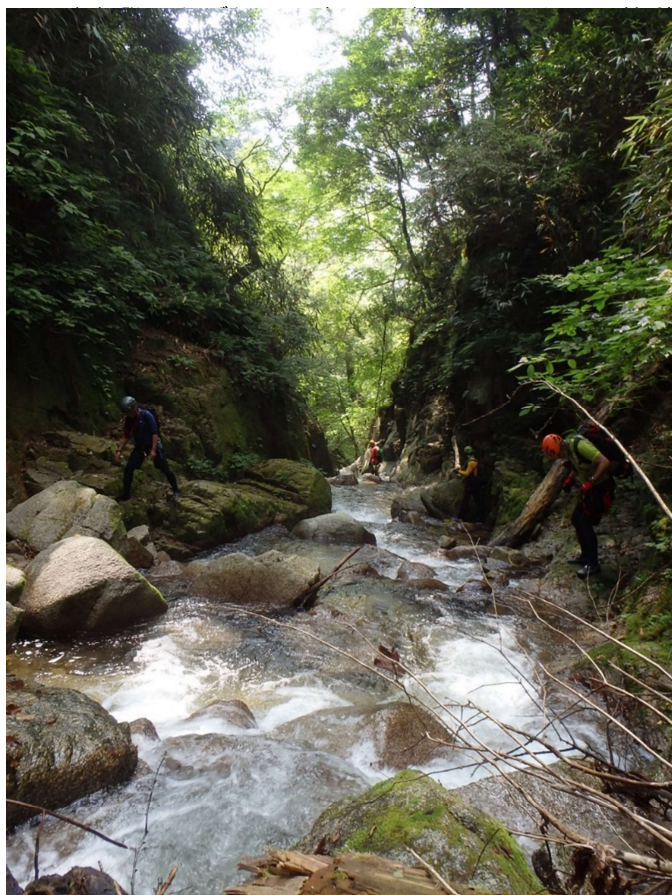
11:30 三つ目の滝は、長い白髪を振り乱した骸骨のような滝姿。

この滝では、右岸寄りの流れの中を、下で栗崎が持つロープを秋葉さんが滝の源頭まで張り、皆はそのロープを頼りに登っていく…という形でした。

この滝は登っていく部分にも水量が多く、私はその水量に抗って行けないような気がして、滝の脇にあったハシゴを利用しました。

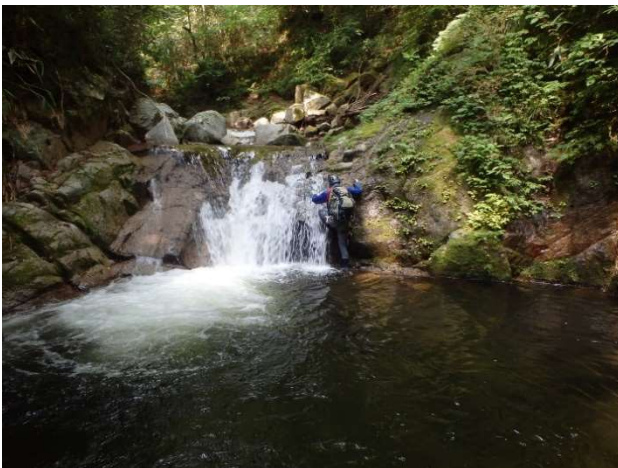


ハシゴでお先にこの滝の源頭部までたどり着いて滝の方を眺めると、なんとも格好の良いゴルジュで「ああ、こんなにカッコイイ谷だったんだ。頑張って登ってくればよかった」とチト後悔。本当に美しいV字谷でした。

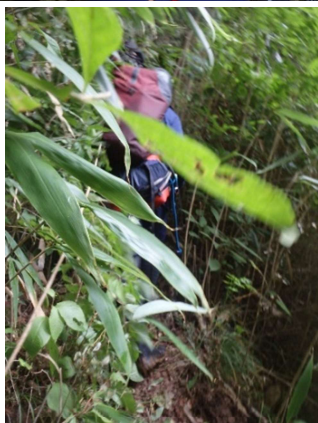
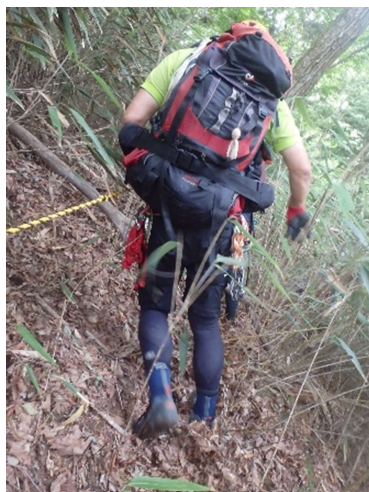




この淵はもちろん足はつかない、岩に手掛かりも足がかりもない、泳ぐしかないプール(^_^;) カメラ持つ人は防水対策するも戦々恐々で泳ぎます。(4枚続き・モデルは秋葉さん↓)

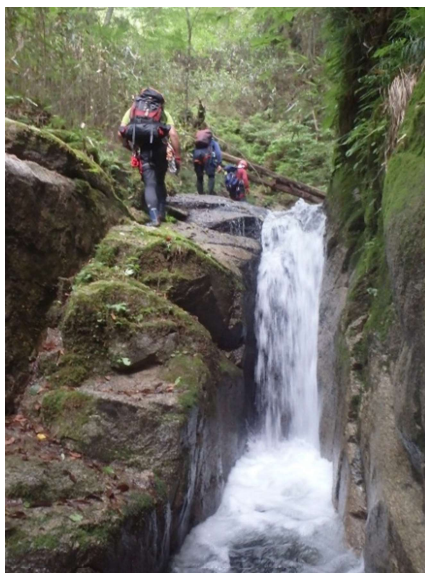
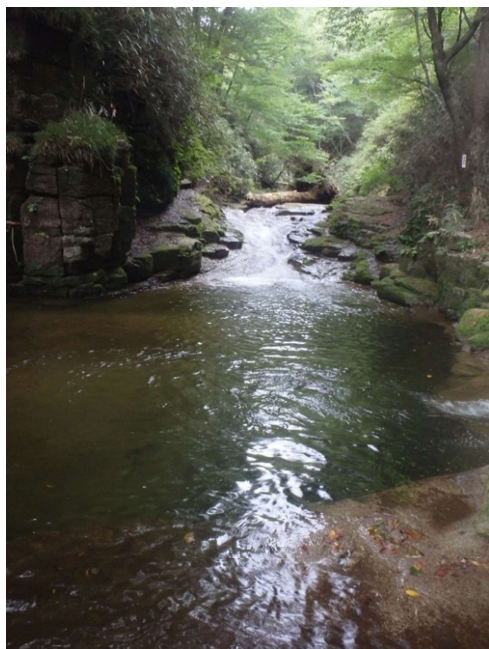


これが最後の沢からの「また来いよ」のあいさつだったかも♪



13:20 皆ドボンからの無事生還にホッとした表情(笑)

13:50 そして帰路につきます。



「こんな所までは猿しか来ない」との意味で草野心平氏によって命名された「猿峨廊」を経て下ります。



途中、両足をつってしまった長谷川さんを急斜面で引き上げるレスキューの実践などもあり。

かつてはトロッコ道であった痕跡残る
笹のヤブコギ道を黙々、モクモクと下り、
16:30 頃 399 号線に出ました。

着衣で、しかもザックを背負って川の中を泳ぐという初めての経験をしました。一番感じたのは、浸水したザックはとても重いということ。今回はとても短い距離だったので事故にはならなかったけれど、しっかり泳げないのであれば腕浮き輪とか簡易ライフジャケットとかの携行も視野に入れた方がいいのかなと感じました。

そして、ロープワークをしっかりと身につけておくことの重要性を改めて深く感じました。日々練習なり！ ご一緒した皆さんありがとうございました。 (文・写真 栗崎容子)